夕刊
磐城新聞
六月九日發行
日曜祭日翌日休刊

大衆課税の種々相

下

佛骨生

如何なる形かに於て新に大衆課税が行はれるとすると、先づ税制整理に伴ふ増徴と、新税の創設とが直に頭念に浮むで來る

藏相の聲明以來、各種新聞紙の報道を綜合して見ると、第一に税率の引上げに依る増税の方面には酒税――清酒、燒酎、味淋などに對する酒造税、麥酒税、ウイスキー、葡萄酒などに對する酒精含有飲料税等を含む――砂糖消費税等が數へられ、新に税目を興すべしと稱せられるものに、砂糖と全く同じ目的に消費されて居る飴、織物と其の用途の同一な絹メリヤスやフエルト、軍事上に將又、交通上に最も重要視されて來た內燃機の燃料ガソリン、概して奢侈的方面に用へられる化粧品、其の他一般家庭の厨房に缺く可らざる燐寸等に對する課税が擧られて居る

又、一時は曾て社會政策的見地から廢税となつた醬油税、賣藥税及綿織物税なども世評に上つたが、藏相の議會での釋明に依つて、豫期の歳入を足充し得ない絶對の場合でない限り之等に對する課税の復活は行はない事を裏書されたから一先づ此の問題は解消の姿である

其の外、現在課しつゝある消費税以上の收入を目途として酒類就中麥酒及砂糖等に對する專賣制度の擴張を爲すべしと說く者があり、燐寸を專賣品中に加へよとの說を爲す向もある。此等の中には國家として資益の多い方面も想像されないでもないが、其の實施には莫大な資金を投下せねばならぬ關係もあつて實現は仲々困難であらう

斯くて、大衆課税も果してどの程度に納まるか。大藏省も議會が了へると直に本格的に税制整理と增税との準備に乘り出した模様であるから其の內何等かの見通しが附く事であらう。何れにしても國民生活に重壓を加へないで増收の目的を遂する大衆課税は至難な問題だと思ふ。國民も直接の利害關係者として最大の關心が懸けられる譯だ

吾人は大衆課税の是非を論せず、暫く其の推移を靜觀しやう

愛の栞

東京　木山緣

クローバの
四つ葉の栞
さゝぐべき
君もなければ
病める手に編む
指さきの震へ佗しく
ひとりゐて籠る純情に
むなしくも春はたけゆく。

6月10日

△水戸光圀生る（寛永五）△井上聞多伊藤俊輔倫敦より歸著（元治元）△陸軍士官學校設立（明治一〇）△遭難の入山に御下賜金傳達（昭和一〇）

小說　高橋是淸

(35)　松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

元三郎浪人（五）

躍りかゝつたと思つたら強く胸を衝かれて、職人は背後へよろ〳〵として

『畜生？』

と、呻いた

元三郎は、一同を見て

『俺は歸るんだ、金は置いたぞ』

亭主が

『巫山戲るな、白を切るな吉原の放火はうぬにちげえねえ。逃がすもんか！』

『放火？俺は知らぬぞ』

若い方の遊人が。息を彈ませて詰め寄りながら

『知らねえ者が、何故風に吹かれに出た。知らねえ者が、今何て言つた。生ッ太え駄三品め！』

『知らぬ。知らぬな』

元三郎は首をかしげてゐる

『俺は放火などしても一文の錢にもならぬ。錢にならぬ事は嫌ひだ。誰がするものか』

『攘夷黨に頼まれて……』

『攘夷は嫌ひだ。武士は嫌ひだ。何も斯も嫌ひだ。粗相火だらう』

『粗相火なもんか』

『いやさうだ、粗忽者が多いからな。而し、怒ることもあるまい。燒けて、燒け盡して、何も斯も新らしくなつた方が宜い。さうすれば。いくらか住みよい世の中が出來るかも知れぬ』

『それ見やがれ』

『だが、俺は知らぬ、放火は大罪だ。眞平だ。退いてくれ。俺は歸るんだ』

『逃がすもんか！』

いつの間にか、皆夫れ〳〵の得物を手にしてゐる

寺鐘が、二三ヶ所で、ゴーン、ゴーンと、脅えるやうに鳴つてゐる。叫喚が、今はもう、手に取るやうに聞えて、雜多な音響と共に、空に卷き上られ、渦卷いてゐる

元三郎は弱り切つたやうに

『困る、困るな。俺は歸らなければならぬと言ふのに家には伜が待つてゐる間違ひがあつてはならぬ。大切な伜だ』

咋が、急に生々と輝いて

『さ、退いて吳れ』

出やうとした時

『舐めるな！』

職人の、心張棒が、力いつぱい胸へ迫つた

『危い！』

元三郎は、喚いて拂つた

『何をする！』

『うぬ！』

亭主の手から、小鉢が飛んだ

遊人の一人が、矢張り心張棒を振つて、眞向から打下した

それに力を得て、もう一人の遊人が、拳を固めて、背後から迫つた。飛び退いてかわして

『莫迦な。知らぬと言ふに』

元三郎の、拳が慄へた

『無禮すると、斬るぞ！』

柄へ手をかけて、隻眼を光らせながら、二三歩進んだ

『畜生！』

『うぬ』

呻きながら、思はず一同が、それにつれて退いた

『知らぬものを……』

が、かう呟いて、出やうとした途端、一同の身體が弓を放れた矢のやうに、一丸となつて、元三郎に襲ひかゝつた

『たわけ！』

次の瞬間、竹光と見た腰刀が、元三郎の手に、蒼白く光つて、高くかざされたのを見ると、一同は又、ギヨッとして跳び下つた

『それ見ろ！』

パチーンと鍔音

刀を納めて表へ跳出すと火の粉が、砂塵のやうに降る、空を見上げながら

『燃ゐる。坊主よ、危いから外へ出るな。燃える。燃える。小氣味よく燃えるホツはツはツ……』

今は歪く伜人のやうに、身を傑はして、高々と烈風に笑つた

ヒモサボテンの花（習作）

好間　伊藤寒山子

ヒモサボテンあかときの露きよら湛へ
ヒモサボテン咲けりわしたの露にぬれ
ヒモサボテン眞白き蕊はつゆを吸へり
ヒモサボテンくれなゐ深くにほへるよ
ヒモサボテンにほへり朝なめざめ愉し

磐城歌壇題詠募集

六月題詠　新妻久滿夫選

『麥』『雲』　歌數自由

締切　六月二十日

長壽十二戒

醫學博士　五十嵐雄二

下

（四）毎日便通ある様に心掛け、更に一週一度づゝ緩下劑で腸を掃除する事

（五）多孔性の着物を着ること。それには木綿が一番よく、冬期には稍々毛の下着に止める事。カラーは寬かに結び、帽子、着物は夏には明るい色のもの、冬には暗い色の物を選ぶ事常に短靴を穿く事

（六）早く寢て、早く起きる事

（七）窓を開け放した暗い静かな室で寢る事。睡眠は決して六時間半より短くならぬ様、男子では七時間半以內、女子は八時間乃至八時間半以內の事

（八）毎週一日は完全に安静にし、出來得れば土曜日から日曜日にかけて田舍か山の中で暮す事

（九）なるべく感動や興奮を避け、既に手の施し様のない事や、遠い將來の事をくよ〳〵考へず、又決して不愉快な事に就て語らない事

（十）生活は中庸を保つ事

性的本能は全然抑壓することなく、原則として結婚生活をなし、若し相手を失つた場合は再婚する

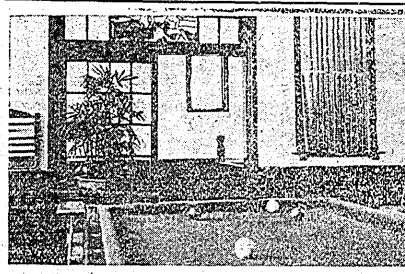
（十一）溫めすぎた場所、特に蒸氣煖房裝置とか換氣の不十分な溫め過ぎた場所をさける事

（十二）アルコール、煙草コーヒー、茶を飲み過ぎない事

洋食　喫茶　宴會
コンパル
平町電話666
毎度有難う御座います。

日本の家庭藥必備
トフメル
皮膚に　外傷に　化粧に
平町田町　阿部藥舖

廣告


御宴會
…サービス自動車…
團体廿人様以上にはお迎ひの自動車を差上げます。（北は平町。南は植田町まで）

毎度格別の御最屓いたゞき難有く御禮申上げます。
愈々御宴會季節と成りましたので・御宴會の御下命賜り度。
團体様には德用な下記弊舘御宴會規定を精々御利用下され度御願申上げます。

松印	3.50	御會席七品付（外果物。御飯香物）藝妓花代。御酒。入浴料。サービス料	共一式
竹印	3.00	御會席六品付（外果物。御飯香物）藝妓花代。御酒。入浴料。サービス料	共一式
梅印	2.50	御會席五品付（外果物。御飯香物）藝妓花代。御酒。入浴料。サービス料	共一式

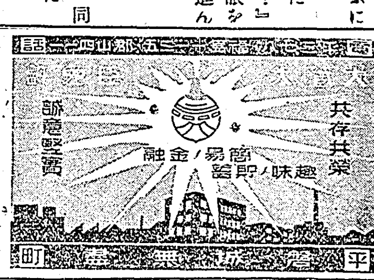
但十人様以上ノコト　藝妓ハ五人様毎ニ一人二時間（松印ニ限リ半玉十人様ニ一人付）御酒ハ御一人銘酒二本ヅヽノコト
◎お申込みは時節柄なるべく至急下記へ
お問合せは　電話（小名濱）103番
通話料は弊館にて負擔いたします。
小瀧鑛泉　瀧乃湯旅館
電話103　割烹部

大和田醫院

前田醫院
院長　前田清美
植田町電話一二四

夏服御用意は
信用堂へ
平町三丁目…電一六一三

ダイナモ
バッテリー
マグネット
電氣ドリル
船舶用發電機
日本瓦斯工業株式會社
瓦斯發製機代理店
平町紺屋町
久野電機
電話七二一番



夜間診療
胃腸性病
（見習看護婦募集）
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

醫學士　吉田久雄
吉田眼科醫院
平町紺屋町　電話六八番

磐城の御みやげ品
物名　靈峰羊羹（みやま）　金十錢
姉妹品　柿羊羹。のり羊羹。沼ノ內辨天羊羹。
御旅のお出入には好個のお土產品です。
小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元　小川郷驛前　平屋賣店

大至急
會員募集
年齡、學歷を問はず堅實なる婦人を望む
平町紺屋町
上原家政婦會
電話二二番

五月人形陳列
勇ましき
甲冑武者、ヨロイ、陣道具
御座敷幟、布鯉類
男兒の幸運を祝はぐ端午節の一切を揃へて皆様の御出をおまちいたしてをります。
平三丁目
金太郎玩具店

五月　節句　祝品賣出し
御座敷幟揃セツト
武者人形
陣道具揃セツト
布鯉　幟ソト
平町四丁目
スガノヤ提灯店
電話九五番

五月人形!!!
鯉のぼり!!
甲冑揃!!!
日本男兒の意氣を壽ぐ
尙武の節句が近づきました
御祝品の御用命はフクダヤへ
大好評の弊店特製鯉のぼり御注文はお早く
二丁目
フクダヤ祝品部

大景品付特賣
愈々特賣締切餘す處
三日間限り
高級レコード　三枚　壹圓
有名會社製品
從來一枚一圓五十錢ノ處
餘ス三日間丈ケ只ノ
八十錢
他ノ同業者ハ何ント思フカ大問題く
平町四丁目局前
天下堂
電話七一五番

銅器・竹製品・籠盛花投入一式
生華用花器は
平町二丁目
和久井屋
電話四〇五番

賣家ハ靜岡產地ノ茶問屋
製產家カラ直接需用家へ
香味自慢生一本小笠銘茶
安價提供出來ル皆様ノ店
買テ喜ビ賣テ喜ブ理想ノ店
卸小賣　大角園
平町撥槌小路

負擔輕減を目當ての 同族會社に受難時代

郡下法人大小二百五十一

稅整案と 地方の動き

石城郡一圓を管轄する平稅務署管內法人（會社）數は現任

種別	社數	資本金額
株式	西	六、一七四
合資	一五九	一、八八二
合名	三六	一、五九六

實に大小二百五十一の多きに上つて居る割合に此の資本金額は千九百六十五萬圓に過ぎないが、右は財產の整理を理由として設けられた同族小會社の多い爲で中には之に藉口して稅金の負擔輕減を目的とするやに見受けらるゝものあり作らも形式上合法的に行はれてゐるので見え透いた逋稅も之を追究する事が出來ず個人に對する課稅に較べ些か均衡を失してゐるかの觀あつたが、過般の全國稅務監督局長會議で各局長の一致した意見中に

一、法人に重く個人に輕くする稅制をとり殊に同族會社による逋稅を防止すること

が掲げられ、右の意見を參考として稅整案の具體案作成に移ることになつたので從來法人の名稱に各種の擔稅上往々韜晦のかたちであつた地方の一部同族會社は近く行はるべき改正によつて永年狎れ來つた恩惠を剝ぎ奪はるゝ事と觀られる、因に之等に對する十年度分成績は（第一種所得稅）所得稅三十六萬五千四百一圓、稅額二萬五百五十一圓（營業收益稅）收益額三十六萬四千八十九圓、稅額一萬二千五十二圓で稅法の改正により如何なる程度の增加を來すべきかは今後課率の公布によつて大体の目算がつく筈である

總工費四十萬圓で 蛭田川大改修決定

着工は遲くも八月頃か

地方多年の懸案だつた蛭田川改修工事は愈よ總工費四十萬圓（今年度七萬五千圓）十五ケ年繼續工事として施工する事に決定したので縣土木課金澤技師外數名が明十日來郡測量を進め遲くも八月中には着工される 同川はさきに匡救事業として二ケ年間に約三萬圓の上流工事を行つたが降雨每に氾濫を免れず愈よ錦村地內河口から上流一里半に亘り改修されるので地元民は何れも大喜びであると

日赤加盟者表彰

日本赤十字社では今回全國二百八十萬社員中一家より現在三名以上の特別社員又は修身正社員を有する家長に對し社長德川家達公より表彰狀を贈つた表彰された本郡支部關係の篤志者左の如し（括弧內は家內加盟者）

（四名）高久村鈴木松之丞（かね、久松、かつよ）（三名）平窪村松崎松治（忠吾、勝兵）鹿島村佐藤喜太（善次郎、萬太郎）

全戸口船舶等に 給水、尙餘りあり

上水道工事愈よ具体化

小名の大動脈

總工費四十八萬圓で計劃を進めてゐる小名濱町の上水道は既報の如く鮫川堰組合に對する取水代償金三萬圓の寄附も纏つたので愈よ着工の段取りとなり明十日町會に附議した上本格的工事に着手する事となつた

同水道は渡邊村上釜戸地內鮫川より分水し其間三里に亘る鐵管で泉村瀧尻地內の高台に設ける淨水地に送り更に自然流下によつて給水するもので取水量は三個、人口三萬の外船舶等に給水して尙餘りある設備が施されるものであると

樂には聽けぬデス 雇人と樂器に新稅

◇……平町に生れた新財源！ 一金千三十五圓也

蓄音器も

縣が新財源生み出し策として十一年度より賦課する事となつた樂器傭人に對する新稅の該當者は平町役場でも過般來縣稅務平出張所と協力、去る四月一日現在により調査を進めてゐたが此程漸く纏り來る十五日第一回の『新稅切符』が配られる事になつてゐる

（縣稅課率）ピアノ年額十圓 オルガン二圓 蓄音器一圓 電氣同上二圓 傭人二圓

により本稅一圓に對し八十九錢の課率で割り出した町稅附加稅は縣稅千百六十三圓に對し

種別	個數	町稅額
ピアノ	一〇	八九、〇〇
オルガン	一六	二八、四八
蓄音器	五三	四五六、五七
電氣同	二六	四九、八四
傭人	三一三	四二一、六八

合計千三十五圓七錢で小學校の授業料の値上撤廢に對し平町にも町稅に於てこれ丈けの新財源が生れたわけである

鎌田鐵橋延長陳情

土木委員會で協議

水害の緩和等から數年來運動を續けてゐる鎌田鐵橋の延長計劃は新橋の架換によつて愈よその必要に迫られるので平町では十二日午前十時から土木委員會に附議これが陳情、其他に關し協議する事となつた、尙同委員會により十一年度施行工事個所の實査を行ふ

五圓台突破の聲 四倉市場に期待集る

郡下養蠶家の意氣込み

沼津の取引が五圓突破の處へもつて來て四倉市場より一と足お先きに行つた保原の御祝儀相場も五圓二十五錢と云ふ良値を示し愈よ『五圓台突破』の聲に郡下の養蠶家は何れも來る十五日蓋開けされる四倉市場に期待をかけてゐる、平町四ケ所の取引店も弗々出廻りを前に目下準備を進めてゐるが南町木村支店では次の如く語つてゐた

例年の狀況から見て出廻りは十五日過ぎになるだらうが今年も高久方面が最初に持ち込むやうだ、相場は未だ見越しがつかぬが各方面の相場から見て相當の高値を示すだらう

簡閱點呼日割

郡下三署管內分

本年度第二師團管下の簡閱點呼日割は此程發表されたが郡下の分左の如くである

△平署管轄區八月五日—十五日 同廿一日—廿三日

△四倉署同上同十二日—十三日

△植田署同上同十六日—

列車振動試驗

福島運輸事務所では特別努力週間に際し線路狀態を調査する事となり今九日平—郡山間で列車振動試驗を行つた

配屬將校會議

濱三郡配屬將校會議は來る十九日午前九時より双葉中學に於て開かれ、磐中大井川、平商佐藤の兩將校出席、敎練に關し種々研究協議を行

拈華微笑（今日の問題）

著任以來支那政局を注視しつゝあつた大使館附武官喜多少將は愈々今九日夜上海出發南京に蔣介石氏と會見する事になつた、所謂特殊貿易に對する或種の誤信と冀察政權に對する國民政府の態度に鑑み不合理な提案のあつた場合斷乎之を一蹴すると同時に西南が內亂を意圖するに抗日—名を藉るの不都合な態度に對し嚴重警告を發するものと觀られてゐる

×

王兆銘の運命旋回、胡漢民氏の逝と云つた具合に、世の中は蔣氏の爲に良い骰コロ許りも出まい、此邊の乘り出しは少くとも近來の苦が手たるを失ふまい

×

庶政一新と國防の充實に關し、成らずば挂冠の大覺悟を以て首相に決斷を促さんとする軍部兩大臣の居催促に對し廣田首相は果して如何なる態度に出るか。『倒れて後止むの意氣を以て所信に邁進する』首相の聲明が尙は耳底に殘つて居る今日、國民の關心がここに總動員されるのも當然である

×

殺人强盜の現役憲兵軍曹、進退谷まつて治安維持の銃口を我れと口中へ。言語道斷『自銃自爆』なる新語が出來た

×

愈々明後十一日が入梅。時間勵行が過ぎたかたちの今日の空模樣

本格の梅雨か？

四、五日過ぎねば……と 小名濱測候所の打診

十日も前からの梅雨氣分は愈々明後十一日の入梅を控えて昨夜來本格に入つたかたちであるが、果して之の儘じめ〳〵した五月雨陽氣に入つて了ふのか、小名濱測候所に伺ひを立てる

昨夜頃から風が北東になり、東の方の氣壓が高くなつた爲梅雨のかたちになつたのであるが、之の愚圖つき天候がどの程度に續くか、あすあたりは一寸時化の兆候があるのでその模樣如何によつては一時陰鬱な天候が解消するか知れぬ、何れにせよ四、五日經つて見ないと見込が立たぬ、云々

（梅雨）六月中旬から七月下旬に亘り東北地方以西に於て連日雨天の續く時期で古來「つゆ」又は「さみだれ」と云ふ、此時期には支那大陸の低氣壓が北東に進むが、北海道方面の高氣壓に止められて進行出來ず、低氣壓は我邦に停滯して降雨を來す

更生の一步

—草野村の計劃概要—

（承前）同村の農業經營は米作、養蠶の單純なるがため農閑期における餘剩勞力極めて多いので、これが利用として製莚、製俵、枯露柿加工、自家用醬油釀造を奬勵し更に空廢地、宅地の利用として柿・梅、桃、梨等の植樹をなす計劃がある、金肥の消費高は現在二萬三千六百九十七圓、反當り三圓餘に達するので今後五ケ年間に一萬七千五百六十圓、反當り二圓五十錢に輕減し、自給肥料をもつて之に代へるものだ、即ち堆肥現在反當り百十五貫を三百貫に、綠肥現在反當り二十七貫を百貫に增殖し地力の增大を圖り土地利用の合理化として水田二毛作に、げんげ、大麥、菜種の栽培を奬勵し農業倉庫の利用を擴大し農會、產業組合等により販賣購買統制を行はんとして居る

『關東賣り』六十二名

打續く凶作に祟られ 哀話續きの山間方部

小學校を出たか出ない位な少年少女の所謂『關東賣り』救濟に乘り出した縣では縣下各署に對しこれら氣の毒な兒童の調査を行つた、平署でも先般來管內に於けるその數を調べてゐたが此程纏つた處によると合計六十二名に上つてゐる

一昨年來の凶作續きにより永戶、澤渡の山間方部が筆頭で賣られ先きは神奈川が最も多くこの身賣金は最低十圓から最高二百圓、中には二、三十圓の金で七、八年も身をしばられ酷使されてゐる氣の毒なものもあると

。。。。愛婦總會打合會

十四日開かれる愛國婦人會平町分會總會の準備打合會は十二日午後一時から町會議事堂で開く

火保料率引下陳情

過般來猛運動を續けてゐる火災保險料率引下げのため平町井上、野崎正副議長以下委員の一行は今九日出仙、保險協會東北支部に陳情した

はるぐ尋ねると 意外！男には妻

幼兒を抱いて苦しむ女

好間村炭礦坑夫杉原勘藏（三八）は今から四年前北海道釧路に出稼ぎ中同市西幣舞町頓化六新川ひろせ方鈴木まさ（三四）と知り合ひ同棲しくら子（二）を生ませすぐ迎へに來る約束で好間村に歸つた儘待てど暮せど戾らないのでまさは最近くらを背負ひはる〴〵男を尋ねて來たが意外にも男には立派な女房があつて相手にされず裏切られた悲しみを抱きながら途中各地の警察で世話になりやツと七日函館迄辿りついて其筋に願ひ出た

湯本の賭博擴大

關係者百名に上らん 平署大繁昌？

湯本の博徒狩りに乘り出した平署では既報の如く同町吹谷料理店花の家女將小野いさ（三七）外十餘名を檢擧取調べを進めてゐるが意外にも同人等の口から同町內に潛む博徒百餘名が判明したので連日十名內外を引致留置場には收容し切れず大繁昌？を呈し係官もこの大量取調べに汗だくである

內鄕で三名

八日午前四時頃內鄕村高坂坑夫佐藤進（三五）方で同人外齊藤行吉（三六）川村小造（三四）の三名が現金賭博開張中一網打盡

徵兵檢查 明執行村

徵兵檢査明十日は左の通り行はれる

（体檢）下小川組合四五 平窪三三 神谷四三 計一二一

（學力）大野四六 四倉七一 計一一七

十八女中誘拐さる？

父親から捜索願

平驛前旅館新開方女中同町三倉町ハル二女遠藤千代子（一八）は今九日早朝同家料理人相馬郡生れ古內安彌（三〇）と共に突然家出行方を晦ましたが安彌は妻子もある處から同人に誘拐され魔窟に賣り飛ばされるではないかとハルから平署に捜索方を願ひ出たが東京方面に行つたらしい

加納五郎氏

けふ長逝明後葬儀

平町紺屋町加納五郎氏は豫て病氣の處藥石効無く今九日午前十一時十分長逝した行年七十歲 氏は慶應三年磐崎村大字下湯長谷の舊家加納屋作平氏の四男に生れ幼時家運沒落に遭つたが拮据黽勉父の遺業を繼いで內鄕村白水不動澤炭礦を自營し更に松本孫右衛門氏の社長たりし三星炭礦所長を經て大日本炭礦の事務長に轉じ、後平製氷を創立して專務取締役社長となり晩年は小名濱水產會社の監督として同社の爲貢獻した等地方實業界に華やかな過去を有する老巧の士である

明後十一日午後二時自宅出棺町營火葬場に於て茶毘に

遠洋漁船遭難

江名町中の作瀧口平次氏所有遠洋漁船は八日午前中カムチヤツカ沖合で遭難危く沈沒せんとした處を航海中の驅逐艦に救助された旨平署に入電あつた

天氣豫報

小名濱測候所觀測

今晩は北西の風雨

明日は北西の風曇後雨

六月十日は— 時の記念日

時計は正確に

時は一切を征服す吾人は時に從はざるべからず。

平時計商組合

附すると

十日

日出 四、二一 月出 後一〇、三三

日沒 六、五二 月沒 前八、五八

滿潮 前五、三五 後八、〇五

干潮 前一〇、二五 後一一、〇五

新 六月十日 水曜 癸亥 六白 赤口 執 壁宿 舊四月二十一日

諸判定處 東京市本鄕區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 退くべきは退き無理を行はざる安全なり▲二黑 上運の日にして成す事功果舉る相談事決斷すべし▲三碧 大利は思はず小成に安んずべし▲四綠 他力を賴むに足らず獨立獨行大に勵め▲五黃 不運をなげかず屈服に努むれば滿足を得べし▲六白 去就進退中ようを守り輕動せざれば災害無し▲七赤 氣運には順應すべしすゐ運と知り營業を守れ▲八白 さよ勢を張らず應分の力を盡して平靜を謀れ▲九紫 目前の小利に焦らず永遠の志を立つるに吉

梅雨の季節に入りました、皆々樣の御淸祥を御慶び申上げます。扨て弊店も皆々樣よりの多大の御引立に預り日に增し繁榮致して居ります事ゝ深く感謝して居る次第で御座います。就ては今度の道路改修のため左記い場所へ移轉致しました。今後益々誠心誠意をもつて商人の使命を果したく親切をモツトーとし〻商務に精勵致す覺悟で御座います。今後共相變らず伏してお願ひ申上げます。

平町五丁目二十四番地（釜屋ノ向）

荒物雜貨商 武子屋商店

電話六一八番

謹啓 加納五郎儀豫而病氣の處養生不相叶本日午前拾壹時拾分死去仕候間此段謹告候也

追而葬儀は明後拾壹日午後貳時自宅出棺平町營火葬場に於て相營み可申候

昭和拾壹年六月九日

養嗣子 加納邦武

男 佐藤作平

親戚總代 加納惠太郎

小野十郎

友人總代 松本孫右衛門

佐藤庄太郎

當社監督加納五郎儀豫而病氣の處養生不相叶本日午前拾壹時拾分死去仕候間此段謹告候也

昭和拾壹年六月九日

福島縣小名濱町 小名濱水產株式會社